



光風緑 Hannan

2008年 11月

日本医療機能評価機構認定病院

〒599-8263 大阪府堺市中区八田南之町277番地 電話(072)278-0381 fax(072)277-2261 URL http://www.hannan.or.jp

理念 愛の心で医療に奉仕を 和の心で総力一致を 励む心で創意工夫を

「日本ストレスケア病棟研究会」講演会

日本ストレスケア病棟研究会より、会長である不知火病院徳永雄一郎院長にお越し頂き、講演&ワークショップを開催いたしました。

当院も準会員として研究会に登録していますが、当院のメンタルケア病棟運営の参考にと、今回研究会へセミナーのご依頼をさせて頂きました。不知火病院のストレスケア病棟「海のみえる病棟」は全国から患者さんが集まる大変有名な病棟です。治療においても、OTやPTの積極的関わりはもとより、専属のカウンセリングナースを配置し、患者さん個々のニーズに沿った援助や働きかけを行います。PSWを主体としたリ・ワークプログラムでは企業との連携や情報共有などを行いつつ復職へ向けた援助を展開します。これら入院から復職に至る組み立てが明確で、豊富なプログラム、濃密なマンパワーを持って治療に取り組んでいる現状を細かく、そして分かりやすくお話くださいました。また、ストレスケア病棟「海のみえる病棟」は急性期治療病棟の認可を受け機能していますが、近年、50代を中心とした従来のうつと

は違い、30代を中心とした若者に多い自己愛型うつ病が増えているとのこと。傷つくことへの恐れから発する攻撃性や依存性といった特徴を持ち、当該病棟では全体の9割を占めるといいます。

こういった患者さんには、従来の抗うつ剤と休養だけでは治療が難しく、安全で安心感のある治療・看護カウンセリングを必要とします。チーム医療を駆使し治療を展開する状況や、治療アプローチについて大変興味深いお話をお伺いすることができました。



基本方針

人 権を重んじ、患者さんやご家族の「心のふるさと」になれるよう、患者さんの立場に立ったやさしい医療をおこないます。

最 新の医療知識と技術を身につけ、予防から急性期治療・リハビリテーション・在宅支援まで継続的な質の高い医療を提供します。

光 と風と緑にあふれた、安全で快適な療養環境を提供します。

地 域の拠点病院として、行政機関や病医院・地域の方々と連携し、保健・医療・福祉に貢献します。

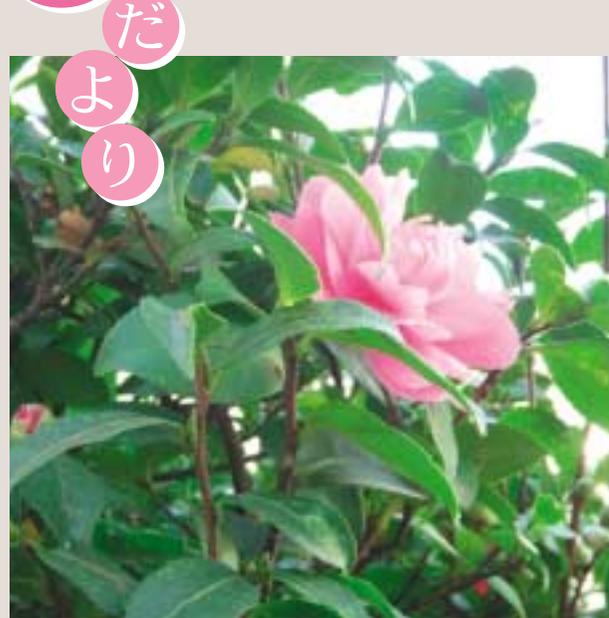
信 頼される医療サービスを提供するために、経営の健全化につとめ、すぐれた医療従事者を育てます。

院内

花

冬の花が咲き始める季節です。

美しい花の季節をお楽しみください。



光風緑

さざんか

椿(つばき)科。学名 Camellia sasanqua
冬の彩りさざんかが美しい時期です。

開花時期は、10/10頃～翌2/10頃。花の少ない晩秋から初冬にかけて、朝夕の冷たい空気に誘われるように咲き出します。

日本が原産地。江戸時代に長崎の出島のオランダ人医師がヨーロッパに持ち帰り西欧で広まりました。

11月半ばから急に冷え込みが厳しくなりました。このさざんかは冷たい陽の光を浴び凜と咲いている姿が冬の花らしいところ。写真よりもう少し色の薄いピンクの花も咲き出します。これからが見頃です。

外来診察表

外来診察時間 / 9:00 ~ 12:00(受付は11:30まで)

	月	火	水	木	金	土	
診察	2 診	黒田	中井		横田	黒田	横田
	3 診	松島	野村	松島	野村	横井	横井
	5 診	西側	梶本	植田	梶本	西側	植田
	6 診	西村	山田	西村	三秋	相馬	
	7 診	白濱	清水	吉田	中井	清水	
睡眠外来	黒田	黒田・野村	野村	野村	黒田	黒田	
小児精神科外来	横田	横田		横田	横田	横田	
専門外来	往診相談 外来	女性外来	口腔心身症 外来	物忘れ 外来			

専門外来(睡眠・小児・往診・女性・物忘れ・口腔)は予約制です
医療機関からの入院・転院のご相談は
地域医療連携室で承ります。

電話 072-278-0381 FAX 072-281-6615



診療科目

精神科 心療内科 内科

病床数

精神科救急入院病棟99床(B1,C1病棟)
精神科急性期治療病棟60床(E1病棟)
亜急性期病棟120床(B2,C2病棟)
メンタルケア病棟51床(E3病棟)
リハビリ病棟60床(E2病棟)
老年期精神疾患病棟120床(D1,D2病棟)
合併症病棟60床(D3病棟)
精神療養病棟120床(F2,F3病棟) 計690床

看護体制

精神科病棟 15:1 急性期病棟 13:1 スーパー救急 10:1
看護師比率70%以上・看護補助 10:1

関連施設紹介

訪問看護ステーションふれあい
居宅介護支援事業所
ヘルパーステーションはんず
ケアホーム/こもれび・青空・つばさ・そよかぜ
堺市中区八田南之町277 阪南病院内 電話072-278-0381
ケアホームあんずの郷
堺市中区八田北町309 電話072-278-2233
地域生活支援センターゆい
堺市中区深井東町3134 電話072-277-9555



編集・発行 医療法人杏和会 阪南病院 地域医療連携室&総務課広報「光・風・緑」チーム

秋の患者さんレク

患者さんが楽しみにしている行事の一つに患者さんレクリエーションがあります。

院内でも病棟ごとの誕生日会や、七夕、夏祭りといった季節行事がありますが、年に2回、春と秋には観光バスで、院外へレクリエーションに出かけます。

今回は、10月29日(水)晴天の中、鶴見緑地へ木下大サーカスを見に行きました。これまでは、みさき公園や天王寺動物園などのんびりと過ごせる場所を選び、レクリエーションを行っていましたが、最近では、若い方も増え、



USJなど少しアクティビティの高い場所を選ぶようになっています。今回は公園でゆっくりとすることも、迫力あるサーカスを楽しむこともでき、患者さんにもご満足頂けたのではないのでしょうか。

なかなか遠出する機会のない方もいらっしゃる中、院外へのレクリエーションは皆さんとても楽しみにされています。現地では散歩をしたり写真を撮ったり、皆さん楽しそうに過ごされました。

メインイベントの木下大サーカスの鑑賞では、大技が決まるたびに、歓声や拍手が起こり患者さんも笑顔いっぱい、和やかに楽しいひと時を過ごされました。

おくすりを飲んでいるときは、お酒飲んだらダメ?

お酒と一緒に「くすり」を服用すると、「くすり」の効果が強く出たり、思わぬ副作用が出たりします。「くすり」を服用中は、お酒は原則的に「禁止」です。



おくすり教室

お薬の飲み方と注意点⑨

「くすり」とアルコールを一緒にとると、肝臓は両方を一緒に処理できないため、アルコールを優先的に分解しようとする。その分、「くすり」に対する分解が遅れ、くすりは通常よりもずっと高い濃度のままで肝臓を通過し血液中に入り、全身をまわってしまいます。

特に：睡眠薬や精神安定剤

消炎鎮痛剤(痛み止め、解熱薬)

抗ヒスタミン(抗アレルギー薬、かぜ薬)

などは、特にアルコールと一緒に服用するのは避ける。薬の吸収が促進され、薬の作用が強くなる。薬の作用が強く出過ぎることがあります。同じ理由から、服用前後の飲酒も避けてください。

記憶障害：睡眠薬の服用後の翌朝起きてからの記憶が障害されることがあります。

睡眠薬はアルコールと併用すると記憶障害が現れやすくなります。睡眠薬とアルコールは絶対に併用しないこと！

食べ物や飲み物が「くすり」の作用に影響することもあるの?

納豆には、ビタミンKが含まれているのですが、これは血液を固める作用があり、血液を固まりにくくするワルファリンの働きを阻害するためです。ビタミンKはブロッコリーやほうれん草にも含まれますが、納豆だけがもんだいになるのは、納豆菌は体内でビタミンKを次々と作るからです。

「くすり」と「くすり」に飲み合わせの注意があるように、「くすり」と食べものや飲み物、または嗜好品などのあいだには一緒に食べるのを避けた方がいいものがあります。

食べ合わせによって、「くすり」の作用に影響を及ぼすものや、副作用が起きることもあります。たとえば、納豆は健康食品の代表でもあるのですが、心筋梗塞や脳梗塞の「くすり」ワルファリンを飲んでいる人には、ちょっと問題があります。

John・M・Kane教授招聘セミナー

10月30日(木)大塚製薬株式会社主催にて、アメリカ、アルバートアインシュタイン大学精神神経学 John・M・Kane教授の招聘セミナーを行いました。今回の講師ケイン先生は世界的にも大変有名な先生です。精神医学関連の多くの賞を受賞し、現在も第一線で活躍されています。

講演内容は、「Response and Remission in Schizophrenia」。精神医療の治療と、それに用いる薬の作用と寛解についてお話くださいました。製薬会社の主催であることから、「くすり」に関連する内容が中心ではありましたが、抗精神病薬における治療データや、治療に重要な薬の効能と認容性のバランス、副作用など見極めた上で、患者さんそれぞれの治療を行わなければならないと、スライドを使って細かくご説明いただきました。また、先生の身振りを交え穏やかに話される様子が印象的でした。

当初、講演には70名の参加を見込んでいましたが、興味深い内容から、開演30分後には資料が足りなくなり、立ち見も出る状態でした。全体では90名を超える参加者がありました。また、多目的ホールには本格的な同時通訳のブースを設置し、分かりやすい聴講とスムーズな質疑が実現しています。その後の懇親会にもほぼ全員が参加し、ケイン先生を囲み和やかな会となりました。



堺市特定給食研究会

特定給食業務向上を目的とし、毎年会員病院で開催されている研究会。今年は当院にて分科会が開催されました。

9月29日(月)、14時から30名を超える参加を頂く中、食療課小倉副主任の進行にてスタート。内容は、病院概要説明 事務長

講義、睡眠障害について 診療部長

最近の栄養補助食品トビックス三嶋商事株式会社

情報交換会

と16時過ぎまで続きました。睡眠障害についての講義は、野村診療部長による、睡眠障害の病状や治療、検査画像やデータなど細かな説明がなされ、皆さん、真剣な表情でスライド画面をご覧になっていました。また、情報交換会では、活発な質疑応答がみられ、とても積極的に参加されている印象をもちました。



スーパー救急病棟認可

10月1日、当院B1病棟が、スーパー救急(精神科救急)病棟の認可を受けました。

昨年5月に認可を受けたC1病棟に続くもので、当院では2棟目のスーパー救急病棟となります。

救急医療は地域の要請も高く、当院ではこれまでスーパー救急と急性期治療の計3病棟が日々の緊急措置や応急を含む入院受け入れ病棟として機能しており、また、急性期治療病棟をスーパー救急病棟に転換し、更に濃密で質の高い治療環境を提供したいと考えました。

もちろん、当院にはメンタルケア病棟もあり、ストレス関連疾患への対応にも力を入れております。救急からメンタルケアまでの領域でも良質で幅の広い医療を展開してまいりますので、今後ともご指導賜りますようお願い致します。

尚、病医の先生からのご紹介は当院、地域医療連携室(072-2780381/代)にてお待ち申し上げます。